

## 社会資本におけるアセットマネジメント

アセットマネジメントとは、資産をリスクや収益性を考慮し、適切に運用することにより資産価値を最大化するための資産管理の考え方である。

わが国では、高度経済成長期以降に集中的に整備されたインフラの老朽化による補修や更新費用に対するニーズの急増が大きな課題になりつつある。アセットマネジメントを導入することによって、損傷・劣化等を将来にわたり把握し、的確に維持管理・更新等を行うことでライフサイクルコストを最小化して、中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化を図ろうとするものである。例えば、施設のサービス水準を維持する適切な管理水準を設定し、その目標を維持するため、現状の施設状態を把握する点検から診断、補修補強工事の実施、その後のモニタリングを含めたマネジメントサイクルを継続的に実行するような取り組みである。

国土交通省では平成15年3月に策定され

た公共事業コスト構造改革プログラム（平成15年～19年）の中で「アセットマネジメント手法等、ライフサイクルコストを考慮した計画的な維持管理を行う」と提示された。その後、政府全体の取組として、平成25年10月に「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」が設置され、同年11月には、国民生活やあらゆる社会経済活動を支える各種施設をインフラとして幅広く対象とし、戦略的な維持管理・更新等の方向性を示す基本的な計画として、「インフラ長寿命化基本計画」がとりまとめられた。この基本計画に基づき、国土交通省が管理・所管するあらゆるインフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取組みの方向性を明らかにする計画として「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」が策定された。これによりアセットマネジメントへの取組みが各分野で進められてきている。

本号より新コーナーとして「実務に役立つ豆知識」の連載を開始します。建設関係施策等の重要なキーワードを解説します。実務に携わる会員の皆様の業務遂行や資格試験の対策などにお役立てください。（全建事務局）